

## 2021 年 感染防止対策室業務活動報告

感染防止対策室主査

荒木大輔

感染防止対策室長

今 信一郎

### はじめに

パンデミックとなっている新型コロナウイルス感染症は、今年も猛威を振るい続け、我々の日常生活をはじめ、病院の診療体制や感染対策に大きな影響を及ぼしている。体制づくりに追われた昨年に引き続き、感染防止対策室として、院内感染を発生、拡大させないという使命のもと、全職員が一丸となり取り組み、改めて「感染症」が社会にもたらす影響と、感染対策の重要性を再認識した一年であった。今年もコロナ対策が日常業務の中心となり、それ以外の業務の縮小を余儀なくされた。以下に今年の活動内容を報告する。

### 1. 新型コロナウイルス感染症

2020 年末から管内の医療機関及び飲食店等で複数のクラスターが発生しており、当院の入院患者数も増加する中、入院患者の高年齢化および中等症以上の患者割合の増加、透析が必要な患者や死亡退院など、感染症病棟という隔離された場所での治療、看護に苦勞し、対応に当たった職員の精神的な不安は大きかったと感じる。その中で、職員の発生もあり、当該病棟を一時的に閉鎖した。接触職員や患者の複数回にわたる PCR 検査やゾーニングを保健所の指示のもと対応し、陽性者が増えることなく終息となった。

3 月には、職員の新型コロナワクチン優先接種が開始され、徐々に一般市民へ接種を拡大していくことで、新型コロナウイルス感染症は終息に向かうのではないかと希望も抱いたが、イギリス型変異株の流行から再び全国的に患者数の増加を認め、北海道においても 5 月 9 日からのまん延防止等重点措置、5 月 15 日には北海道医療非常事態宣言、5 月 16 日から 6 月 20 日まで、緊急事態宣言の発令となり、全道に不要不急の外出自粛、酒類を提供する飲食店の休業、時短営業等を要請した。管内の陽性者も増加する中、当院の新規入院患者数も増加し、これまで 1 階南病棟であった感染症病棟の 12 床から、6 階西病棟を閉鎖し 30 床を確保、5 月 27 日から 6 月 11 日まで病床を拡大して患者を受け入れた。一般病棟を閉鎖しての陽性患者の受け入れは、もちろん初めて

のことであり、ゾーニングや患者動線の決定、看護体制の調整など想像を超える苦勞があった。重症患者や急変も多く、多職種が協力することでこの期間を乗り越えられたと思っている。

8 月 27 日から 9 月 30 日まで、再び緊急事態宣言が発令された。この時期はデルタ株が流行し、入院患者数も増加した。9 月中旬から 12 月末まで新規入院患者はいないが、これまでの受け入れ患者は延べ 97 名となった。

感染症病棟だけではなく、発熱外来や救急外来をはじめ、一般外来等においても発熱など疑わしい症状を有する患者の対応には最大限の注意を払い、自分の身を守りながら対応に当たること、感染の拡大もなく、一年を過ごせたことは個々の対策の賜物であり、うれしく思う。

さらに、2 月より院内 PCR 検査装置 6 台を導入し、これまで外部委託していた手術前 PCR 検査を当院で実施、併せて緊急入院時についても PCR 検査の実施を開始した。11 月には 4 台増台し、院内感染対策に万全の体制を整え、現在も連日フル稼働している。また、感染症病棟においては全てのベッドに酸素パイピングを整備した。COVID-19 流行状況 phase やくじらんチェックなどの職員の行動指針や健康管理システムも定着し、適宜出される通達において、行動制限等の対策も徹底してきた。今後もこのウイルスは変異を続け、新たな対応が求められることは容易に想像できるが、基本的な感染対策の徹底を遵守しながら、引き続き職員一丸となって取り組んでいきたい。

### 2. MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率 (図 1・図 2)

2021 年における MRSA、緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率は、1.35%、2.27%となった。MRSA は減少傾向にあるが、緑膿菌は増加となった。3 年毎の陽性者率についても MRSA は減少した。

### 3. リンクスタッフ活動 (表 1・図 3)

4 月より、リンクスタッフの体制を変え、任期を 2 年

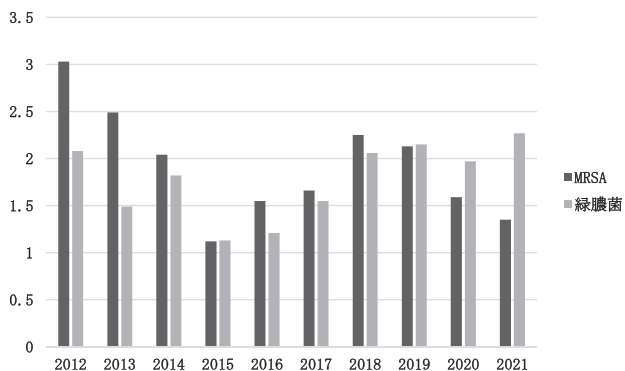


図1 MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率 (%)

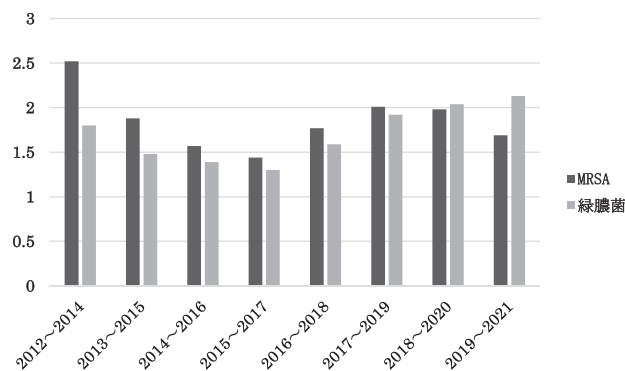


図2 3年毎のMRSA・緑膿菌在院患者当たりの陽性者率 (%)

表1 リンクスタッフ活動発表会

	氏名	部署	演題名
<b>〈1. 手指衛生〉</b>			
1	杉本 麻美	4階東病棟	アルコール手指衛生が行えないスタッフの手指衛生方法の提案と手技の統一を目指して
2	石田 麗朗	2階南病棟	手指消毒の「5つのタイミング」の意識向上における取組み
3	松村 知憲	中央手術室	手指消毒薬使用量の維持と向上に向けた取組み
4	上杉 美帆	脳外科外来	個人アルコール消毒剤使用の意識を高める
5	加藤 久晴	薬局	手指消毒薬の個人携帯を継続しつつ、「WHOの5つのタイミング」を意識した手指衛生の徹底
6	大屋 菜摘	入退院支援室	環境整備により手指衛生の向上を図る
<b>〈2. 環境整備・清掃〉</b>			
7	谷 菜苗	3階東病棟	血圧計・パルスオキシメーターの汚染度調査による接触感染対策への意識変化調査
8	村瀬 司	4階西病棟	血圧計・SpO <sub>2</sub> 測定器の汚染度調査
9	山田 浩正	4階南病棟	精神科閉鎖病棟における感染予防の現状～鍵・マグネットキー・パテントボタンの汚染から感染リスクを考える～
10	猪股 典敏	臨床検査科	輸液ポンプに対する清拭有効度調査
11	皆川 拓海	放射線科	放射線科全体のPHSの汚染度調査と改善に向けて
12	武田 葵	リハビリテーション科	パソコン横にアルコールを設置することで使用量・キーボード汚染状況の変化
<b>〈3. 個人防護具〉</b>			
13	田仲 正和	3階西病棟	カテーテル治療における新型コロナ感染予防のN95マスク着脱技術の確立を目指して
14	田畑 奈桜	ICU病棟	サージカルマスクの長期使用による汚染状況について
15	渡邊ひかり	HCU病棟	ゴーグルの清潔保持への意識付け
16	中村ゆみこ	救急診察室	防護具の着脱が正確にできる取組み
17	勝岡絵里衣	日清医療食品	二次汚染防止に向けた厨房における手袋の使用法の適正化
<b>〈4. 教育〉</b>			
18	伊藤 美空	5階東病棟	患者の適切な手指衛生を習慣づける取組み
19	長内 花菜	6階東病棟	接触感染予防に対する理解を深めるために
20	塩澤 阿依	6階西病棟	化学療法を受ける患者の感染予防を支える援助

とした。継続的に感染対策における実践モデルとしての役割を担うことを期待している。活動発表は8年目を迎えたが、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、発表会の中止を余儀なくされ、集録の配布のみとした。

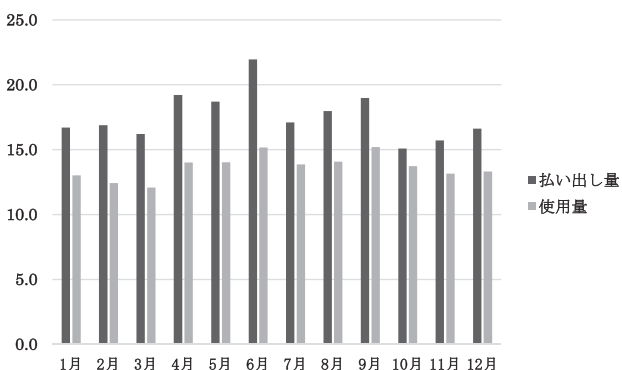


図3 年間の1患者1日当たりの払い出し量・使用量の推移 (mL)

#### 4. 西胆振感染対策地域ネットワーク

(表2・3・4)

今年は、10月より上田病院が加算2を取得してネットワークに加入、16施設となった。新型コロナウイルス感染症関連においては各施設が苦勞しながら対策を行っている中、気軽に相談し合えるネットワーク本来の意義を改めて感じている。全ての合同カンファレンスは、感染予防のため、「Zoom」を使用したWeb開催とした。会場に赴くことなく自施設から参加可能となり、負担の軽減となっているとともに、集合開催と遜色なく実施できている。コロナ禍における良い収穫の一つと言える。

#### 5. 院内研修会 (表5・6)

今年の研修会も紙面開催、Webでの開催とした。院内感染対策委員会主催研修会では、国立函館病院の野館陽先生をお招きし、新型コロナ対応や陽性者受け入れ、また、特定看護師についてもお話をいただき、他院の取

表2 西胆振感染対策地域ネットワーク参加施設

	1	2	3	4
加算1算定	市立室蘭総合病院	製鉄記念室蘭病院	日鋼記念病院	伊達赤十字病院
加算2算定	JCHO 登別病院 室蘭太平洋病院	聖ヶ丘病院 上田病院	登別すずらん病院	洞爺温泉病院 洞爺協会病院
未算定	豊浦国保病院	ミネルバ病院	そうべつ温泉病院 三村病院	三愛病院

表3 地域ネットワーク合同カンファレンス

	開催日	テーマ	参加者
全体開催 (Web開催)	9月2日	新型コロナウイルス感染症対策についての講演とディスカッション	82名
小グループ開催 (Web開催)	2月19日	新型コロナウイルス感染症対策	14名
	3月26日	それぞれの施設に聞きたい各部門の感染対策	12名
	7月16日	抗菌薬適正使用について	18名

表4 地域相互ラウンド

回	開催日	内容：テーマは新型コロナウイルス感染症対策
第1回	10月12日	日鋼記念病院 ICT が感染症病棟、正面玄関前プレハブ等を巡視
第2回	10月18日	当院 ICT が発熱外来、救急外来、手術室、HCU を巡視

表5 ICT・AST勉強会の記録

開催日	テーマ	演者
3月 紙面開催	第2回 AST・ICT 勉強会 抗菌薬使用をおさらいする	吉嶋 邦晃
12月 Web開催	第1回 AST・ICT 勉強会 緑膿菌「緑膿菌と抗緑膿菌薬」	金子 圭太

り組みを知る良い機会となった。

## 6. その他の活動記録 (表7・8・9)

ICT ニュースについては、これまでに比べ少なくなつてしまったものの、周知が必要なトピックスを発行できた。AST ニュースについては、院内の問題点等を踏まえ、リアルタイムに発行し、医師へは個別にも配布し、必要事項を周知できており今後も継続していきたい。

## 7. 院外活動

1. 荒木大輔：①疫学と統計学 アウトブレイクの調査・介入、②感染防止技術 血流感染、講師。北海道医療大学認定看護師研修センター (2021年7月2日 札幌)
2. 荒木大輔：日本感染管理ネットワーク学会理事

表6 院内感染対策委員会主催研修会の記録

開催日	テーマ	演者
10月8日 Web開催	国立函館病院のCOVID19対応と特定行為研修終了後の看護師の役割	独立行政法人国立病院機構函館病院 感染管理認定看護師・感染症管理特定看護師 副看護師長 野館 陽 先生

表7 ICT News の記録 針刺しレポートは毎月1日

発行月	タイトル
3月	いよいよワクチン接種がはじまります
8月	首都圏から全国へ、新型コロナウイルスの感染拡大は今も続く。緊急事態宣言は延長されたものの、引き続き予断を許さない状況だ。

表8 AST News の記録

発行月	タイトル
1月	2020年度 採用抗菌薬の整理について
3月	MIC (最小阻止濃度) が小さいほど抗菌力が強いのか?
4月	AST・ICT勉強会 確認問題の解答・解説 CD感染症のくすり
7月	もっとも有効な抗菌薬は、どれでしょうか?
8月	自然耐性
11月	血管内カテーテル関連感染症の治療期間

表9 マニュアル改訂

マニュアル改訂	〈院内感染対策マニュアル〉 4. 洗浄・消毒・滅菌 7. 針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露時の対応 17. 感染症病棟
---------	--